

第4 リスクアセスメントの進め方（実践演習）

【1】実践研修までの準備

【受講者用テキスト】

1 2回目の研修までに実施すること

第2回目の研修は、実践演習です。ここでは次のことを行います。

- ① 自社で実施したリスクアセスメントの発表
- ② 効果的なリスク低減措置の実施の演習と討議

このため、受講者は、第1回目の研修が終了したあと、第2回目の研修までの間に次のことを実施しておきます。

- ① 事業場内にリスクアセスメントの実施体制を整える。
- ② 事業場内の安全委員会等でリスクアセスメントの実施について審議する。
- ③ 作業現場を特定の上、リスクの見積からリスクアセスメント実施までを行う。

2 実践研修で使用する発表資料

実践研修では、研修受講者が自社で実際に実施したリスクアセスメント結果について1事業場10分程度で発表します（1事業場から複数名参加している場合は、それぞれが発表します）。

発表者は、次ページの様式に次の事項を記載し、表を完成させます。

- | | |
|---------------|------------------------|
| ① 業種 | ⑦ 危険性又は有害性と発生のおそれのある災害 |
| ② 事業場規模（労働者数） | ⑧ 既存の災害防止対策 |
| ③ 職場 | ⑨ リスク見積り |
| ④ 実施担当者 | ⑩ リスク低減対策 |
| ⑤ 実施日 | ⑪ 措置実施後のリスク見積り |
| ⑥ 作業名 | ⑫ 今後の検討課題 |

各事項の記載に当たっては次のことに留意して下さい。

- ・ 写真撮影が可能なものについては、対策の実施前、実施後の写真を添付してください。
- ・ 写真撮影ができない場合は、イラストでも結構です（対策を実施していない場合は想定図でも可）。
- ・ 写真、イラスト（想定図を含む）を添付できる対策については、すべて添付してください。

なお、実践研修においては、各自が作成した発表資料を他の受講者に配布しますので、各自人数分（10枚程度）をご用意ください。

演習終了後、次回の研修のために、上記の準備について説明を行う。

合わせて、次回（2回目）のカリキュラムについても説明しておくことが望ましい。

【2】自社で実施したリスクアセスメントの発表

【受講者用テキスト】

○ 各事業場で実施したリスクアセスメントの発表、評価（2時間）

事前に作成した発表資料にもとづき、1事業場10分程度で、リスクアセスメント実施結果を発表した後、講師が評価を行います（1事業場から複数名参加している場合は、それぞれが発表します。）。

各自の持参した資料について発表をさせる。

【3】効果的なリスク低減措置の実施の演習と討議

【受講者用テキスト】

1 効果的なリスク低減措置の実施の演習と討議（2時間）

- ① 10名程度の受講者を2グループ（1グループ5名程度）に分けます。
 - ② グループごとにリーダー（司会）、書記、発表者を決めます。
 - ③ 講師が各事業場で行ったリスクアセスメント結果からグループごとに演習課題を1つ選びます。
 - ④ 演習課題について、個人作業で効果的なリスク低減措置を考えます〔10分〕。
 - ⑤ グループ討議を行い、「効果的なリスク低減措置を考えるためのリスクアセスメント実施一覧表」（次ページ）を作成します。〔15分〕
 - ⑥ グループごとに発表します〔各グループ10分〕。
 - ⑦ 発表結果について、講師が講評します。
 - ⑧ 別の演習課題について、上記③～⑦を実施します。
- ※ 上記の時間はあくまでの目安です。

2 演習、討議における留意点

この演習では、効果的なリスク低減措置を理解することを目的としているため、管理的対策（マニュアルの整備、立入禁止措置、ばく露管理等）だけではなく、本質的対策（危険作業の廃止・変更等、設計計画段階からの危険性・有害性の除去・低減）、工学的対策（インターロック、局所排気装置の設置等）をできるだけ考えてください。

講師が、上記手順で演習を行うことを説明する。